



横浜市立大学 地域貢献通信

VOI.3
2021.8

市民に親しまれる大学でありたい

横浜市立大学は、横浜とともに歩む大学として、研究・教育・診療の力で市民や地域社会に貢献します。
この通信では、市大が取り組む様々な地域連携活動をご紹介します。

地域と連携し、実践的に取り組む研究事業 新たに12の研究課題がスタート！

地域課題をテーマに、地域社会と連携して行う研究事業「教員地域貢献活動支援事業（地域実践研究支援）」として、R3年度は新たに12件の研究課題が開始しました。（R3年6月～）

研究概要をWEBで公開しています！

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/Contributions/research/i561dj0000000ako.html>



研究課題名	実施教員
自治体財政における長期財政推計を活用した住民参加手法の研究	宇野二郎（国際教養学部）
医療データの可視化でサステイナブルなまちづくりに挑む ー地域におけるデータサイエンスの実装ー	清水沙友里（データサイエンス研究科）、 金子惇（データサイエンス研究科）
病院組織の中での対話を支援するファシリテーターの育成	勝山貴美子（医学部看護学科）、吉永崇史（国際商学部）
災害前に行う地域復興まちづくり模擬訓練ワークショップの試行と効果分析 ー高低差のある横浜型木造密集住宅地を対象とした「地域の共助を育む」防災・住宅・福祉分野の横断的実践研究ー	石川永子（国際教養学部）、影山摩子弥（国際教養学部）、 三輪律江（国際教養学部）
地域と学生のギャップ解消を考慮した大学連携型観光マーケティング・プロジェクトの検証ー食でつながる東京、横浜、日本、そして世界ー	有馬貴之（国際教養学部）
企業緑地を活用したまち保育的環境学習の可能性についての実践研究	三輪律江（国際教養学部）
区分所有型マンションの自立型再生の支援体制に関する研究 ー横浜型再生手法の検討ー	齊藤広子（国際教養学部）
横浜市における1970年代以降の都市デザイン施策に関するオーラル ヒストリー研究	鈴木伸治（国際教養学部）
IoT地震動計測センサネットワークの構築ー実証実験とデータ利活用 に関する研究ー	金垂伊（理学部）、小野陽子（データサイエンス学部）
都市部海域でのアマモ場再生を目指した生物学的研究	塩田肇（理学部）
ニューノーマル時代に魅力ある郊外生活の基盤ー都市解析アプローチ からみる横浜郊外の団地の人の流れと日常生活環境ー	後藤寛（国際教養学部）
横浜市の健康課題に対応できる行政保健師を育てる新任期保健師向け 研修コンテンツの開発	有本梓（医学部看護学科）、岩田由香（医学部看護学科）、 伊藤絵梨子（医学部看護学科）、叶谷由佳（医学部看護 学科）

発行部署

公立大学法人 横浜市立大学 地域貢献センター
横浜市金沢区瀬戸 22-2 金沢八景キャンパス
Tel : 045-787-2449
Mail : chiiki@yokohama-cu.ac.jp

Web サイト <https://www.yokohama-cu.ac.jp/Contributions/index.html>

Twitter @ YCU_chiiki

附属病院、附属市民総合医療センターでは、地域医療の最後の砦の病院として、新型コロナウイルス感染症に対応してきました。

各病院が、この未曾有の事態にどのように考え、どのように乗り越えてきたかの記録として動画を作成し、公開しています。

下記 URL から、ぜひご覧ください。



附属病院

<https://youtu.be/Q0ekJNtMQM0>



附属市民総合医療センター

<https://youtu.be/lpy-a5hjYWA>

新型コロナウイルス感染症への 対応記録 — 市大附属2病院の動画を公開中

みなとみらいと関内地区 のイノベーションプラ ットフォーム 「横浜をつなげる30人」

国際商学部の芦澤美智子准教授と吉永崇史准教授は、産学連携で新たなイノベーションを生み出すことを目指して、みなとみらいと関内地区のイノベーションプラットフォーム「横浜をつなげる30人」を立ち上げました。

「横浜をつなげる30人」は、横浜に関係する様々なセクター（大企業、地元中小企業、ベンチャー企業、NPO、大学、市民、行政など）から若手メンバーが集まって実施する、対話型・継続型・実践型のまちづくりプロジェクトです。

オープンイノベーションを実現し、横浜をより良い街にするため、6か月のセッション（2020年10月～2021年3月）の後、最終発表会を2021年6月に行いました。



柴田典子ゼミ学生による 「魚食拡大プロジェクト」

国際商学部の柴田典子准教授ゼミでは、コロナ禍で、学生たちが食と健康に向き合う機会が増えたことをきっかけに、水産業界における在庫不良問題や、魚食機会の縮小という社会課題に着目し、魚食拡大のためのマーケティングに取り組んでいます。

南部市場にある水産会社の（株）横浜食品サービスの協力を得て、「魚食拡大プロジェクト」を立ち上げ、業界と市場のギャップを見つけ出し、消費者のニーズとマッチングさせるために、マーケティングや消費者行動研究を活かしたアプローチを行っています。若者の魚食機会を増やすための第一歩として、「魚を使った商品開発」と「生協食堂での魚メニュー提供」に取り組みました。本プロジェクトでの取組を、「アグリカルチャーコンペティション2020」に「柴田ゼミおさかな広め隊」として出場し、審査員特別賞を受賞しました。



（2020年8月～ 写真はアグリカルチャーコンペティションの様子）

地域のご協力のもと、コロナ禍で生活が 厳しい学生へ食の支援を実施

校内教職員からの寄付や公益社団法人フードバンクかながわ、社会福祉法人横浜市金沢区社会福祉協議会、地域の方々等からの支援を受けて、コロナ禍により、生活費を賄うアルバイト収入の減少や、保護者の経済状況の悪化により必要な仕送りが得られない等、厳しい生活を送っている一人暮らしの本学学生に、食料品を届けました。

提供する食料品の仕分けの準備や当日の運営等、学生ボランティアや教職員によって行い、地域と大学が一体となって学生の支援を行いました。



新型コロナウイルスワクチン職域接種を実施 近隣企業等への派遣も

学内の接種希望者に対して、8月からワクチンの職域接種を開始しました。また、学内だけでなく、ワクチン接種を行う医療従事者の確保が困難な近隣企業や大学等の職域接種に協力するため、医師・看護師等の派遣や、本学職域接種への受入などを行っています。



もっと知りたい！

大学 web サイトにも話題のニュースを掲載しています
<https://www.yokohama-cu.ac.jp/index.html>